
星の願い

凜華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の願い

【Nコード】

N1199K

【作者名】

凜華

【あらすじ】

空がどんな時も星空な世界スターリング。

この世界には3つの国があり、ラト・ティンスクリア・シュタインという国が在った。

ティンスクリアとシュタインは戦争をしていて、ラトは平和な国であつた。

ある日、世界を成り立たせている星が異常を起こすようになった。そして、少年は旅に出て、少女は世界を知る旅に出る。

第一話 始まり

声が聞こえる…

「助けて…」

ふと、目が覚める。何の夢を見ていたのだろう。「まあ、いいか。」
そう思い窓を開けて空を見る。

空には朝にもかかわらず星空が広がっていた。

この世界、スターリングでは普通のことである。今日の天気は、天の川が見えるほどよい天気だった。

コンコン。「起きましたか？」

「起きました」そう答えると、零^{れい}が部屋に入ってきた。

「凜様。今日は、…」

「その様っていろいろのやめて下さい」少しむくれたように凜は言った。
「我慢して下さい。今日のスケジュールは朝食を食べた後に戦闘訓練1・5時間、その次に魔法訓練2時間、15分の休憩、その次に勉強3時間、昼食、読書2時間、実施訓練3時間、夕食、自由時間の 予定です」

「んゝ、わかったゝ。ありがとう。」

「失礼しました。」

零が出て行った後、小さく溜め息をついた。

（また、同じことの繰り返し…。今日こそいつもと違うことが起きないかな？）

そういつもと同じことを思いながら部屋を出て、朝食へと向かう。

……今日も疲れたなあゝ。何もかもいつもどおりだった。今日も。

お母さんもお父さんも過保護すぎる よゝ。せめて家の外に出してくれてもいいのに…。

そして、いつもどおりに寝ようとするそそれは、起こった。

「あなたは…、だれ？」

第一話 始まり（後書き）

初めて書いたので、アドバイスなどがありましたらご指摘ください。
まだ少年は出ていないので、次の「第一話 もうひとつの始まり」
をもうしばらくお待ちください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1199k/>

星の願い

2011年1月28日03時41分発行